

**第2期
基本計画**

**第2章
豊かな心で未来に
挑戦する人づくり
(教育・文化)**

第2章 豊かな心で未来に挑戦する人づくり(教育・文化)

施策1 学校教育の充実



◆目指す姿

- ・学校、家庭、地域の連携により、未来の水俣を担う人間性豊かな人材が育っています。
- ・児童生徒一人ひとりが持つ可能性を最大限引き出し、楽しく学ぶことができる教育環境が構築されています。
- ・児童生徒が安全・安心かつ快適に過ごせる学習環境が整備されています。

◆現状

本市の小中学校では、自然やふるさとを愛し、環境への関心を高め、主体的に学ぼうとする意欲と自らの行動に責任を持つことのできる、心豊かでたくましい児童生徒の育成に努めています。

また、いじめなどの問題及び不登校を未然に防止し、早期発見・解決するためのネットワークの強化、学校施設の整備等を行い、誰もが楽しく快適に学ぶことのできる環境づくりを目指しています。

◆課題

ふるさと水俣を愛し、未来の水俣を担う人間性豊かな人材を育成するため、学校、家庭、地域が連携して各施策に取り組んでいく必要があります。

いじめ、虐待などの問題及び不登校対応については、未然防止はもとより、早期発見・解決が重要であり、関係機関相互のネットワーク体制の充実、強化が必要です。

また、障がいの有無に関わらず、学校での生活や学習上の困難を抱える児童生徒の個々の教育的ニーズを把握し、きめ細やかで適切な指導及び必要な支援、特別支援教育の充実も必要です。

さらに、非常災害時にも対応し得る学校施設の整備・充実が急務となっているほか、学校施設の長寿命化やトイレ等の整備についても進めていく必要があります。

学校給食については、安全・安心な給食を提供し、児童生徒の健全な育成を支援していく必要があります。

施策区分1：確かな学び・豊かな心・健やかな体を育む学校づくり

【目的】

「確かな学び・豊かな心・健やかな体」を育み、未来の水俣を担う人材を育成するため、関係機関と連携し、子どもたちの生きる力を育みます。そのため、ふるさと水俣を愛する人間性豊かな子どもたちを育てる「水俣科※1」や食育の授業などを引き続き実施していくとともに、必要なソフト・ハード面の充実を図ります。

<関連計画> 水俣市教育振興基本計画

成果指標	単位	基準値(2021年度)	目標値(2026年度)
熊本県学力・学習状況調査の教科※ ² における県平均以上の教科数	教科	5/14	8/14

施策区分2：誰もが楽しく学べる教育環境づくり

【目的】

誰もが楽しく学ぶことができる教育環境づくりを目指し、学校教育をめぐる複雑多様化する問題に対応するためのネットワーク構築や、学校生活などで特別な支援が必要な児童生徒に対する適切な指導・支援に努めます。

<関連計画> 水俣市教育振興基本計画

成果指標	単位	基準値(2021年度)	目標値(2026年度)
いじめ解消率※ ³	%	90	100
専門職等の相談支援体制	日	150	250
特別支援教育支援員の配置人数	人	32	適正人数の配置

施策区分3：安全・安心な学校施設の整備・充実

【目的】

施設の老朽化に伴う内外壁等の非構造部材※⁴の耐震化やトイレの改修が必要となっていることから、児童生徒が安全・安心かつ快適に過ごせるよう、学習環境等を改善します。

<関連計画> 水俣市教育振興基本計画、非構造部材耐震化計画、水俣市学校施設等長寿命化計画（個別施設計画）

成果指標	単位	基準値(2021年度)	目標値(2026年度)
小中学校施設の非構造部材耐震化実施校数（累計）	校	8/11	9/11
小中学校施設のトイレ改修実施校数（累計）	校	6/11	9/11

施策区分4：地域とともにある学校づくり

【目的】

各小中学校において学校運営協議会を設置し、育てたい子ども像、目指すべき教育のビジョンを学校と地域が共有しながら、コミュニティ・スクール※⁵として子どもたちの健全育成や学校運営の改善に取り組みます。

また、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動※⁶との一体的推進を図り、地域全体で子どもたちの学びや成長を支え、学校を核とした地域づくりを目指します。

<関連計画> 水俣市教育振興基本計画

第2章 豊かな心で未来に挑戦する人づくり(教育・文化)

成果指標	単位	基準値(2021年度)	目標値(2026年度)
学校運営協議会設置数(累計)	校	4/11	11/11

施策区分5：笑顔の花咲く給食づくり

【目的】

安全・安心で、楽しくおいしい給食を提供するために、適切な衛生管理のもと、地場産の旬の食材を使った水俣・芦北メニューなど特色のある献立の実施、アレルギー対応食の提供等を行います。
また、家庭・地域・学校における食育を推進し、元気に育つ子どもたちを支援します。

<関連計画> 水俣市教育振興基本計画

成果指標	単位	基準値(2021年度)	目標値(2026年度)
衛生管理研修の実施	回	2	基準値の維持
水俣・芦北メニューの実施	回	11(1回/月)	基準値の維持
給食センターまつりの実施	回	0	1



【市民アンケート調査における市民の意見】

- ・水俣は全国、熊本県下でも学力が低い傾向にあるので、底上げを図ってほしいです。
- ・校舎等の長寿命化を図り、新しくなくても快適なところで学んでほしいです。

《用語説明》

- ※1 **水俣科**：総合的な学習における、郷土学習のこと。
- ※2 **熊本県学力・学習状況調査の教科**：
 - ・小学校 3年生～6年生の国語及び算数 8教科(4学年×2教科)
 - ・中学校 1年生～2年生の国語、数学及び英語 6教科(2学年×3教科) 計14教科
- ※3 **いじめ解消率**：市内小中学校のいじめに関する報告件数のうち、専門職等の支援相談等によりいじめが解消された割合。
- ※4 **非構造部材**：柱、梁、床などの構造体ではなく、天井材や外壁(外装材)等、構造体と区分された部材のこと。
- ※5 **コミュニティ・スクール**：保護者や地域住民が一定の権限と責任を持ち学校運営に参加し、教育目標の実現に向けてともに協働していく仕組み。
- ※6 **地域学校協働活動**：幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、地域と学校が相互に連携・協働して行う活動。

施策2 スポーツを通じた人材育成



◆目指す姿

- ・スポーツを通して、水俣への愛着と誇りを持った人材が育っています。
- ・スポーツを通して、地域などで中心的な役割を担える人材が育っています。
- ・スポーツを通して、子どもから高齢者まで誰もが健康で明るく豊かな生活を送っています。
- ・誰もが気軽にスポーツのできる環境が整っています。

◆現状

子どもから高齢者まで、それぞれのライフステージ※¹に応じたスポーツ活動の場が求められており、市民のスポーツ活動に対するニーズが多様化しています。

令和3（2021）年度には「スポーツコミッションみなまた」を設立し、行政と民間が連携してスポーツ大会や合宿の誘致に取り組んでいます。

なお、学校においては、平成31（2019）年度に小学校運動部活動が社会体育へ完全移行しています。

◆課題

スポーツを通じた子どもたちの健全育成を推進する体制を整備するには、指導者等の育成や確保が極めて重要であるため、関係団体との連携を更に強化していく必要があります。

また、スポーツを「する」「観る」「支える」など多様な関わりの機会を多く確保し、市民協働※²によるスポーツ振興体制の充実を図る必要があります。スポーツ大会や合宿を誘致していくため、大会の会場となる施設の充実を図っていく必要があります。

なお、中学校部活動については、可能な限り令和5（2023）年度から令和7（2025）年度までの間に、地域へ移行することが求められています。

施策区分1：子どものスポーツ活動を支える体制づくり

【目的】

地元企業などの寄附を基金として積み立て、子どもたちのスポーツ環境の整備、指導者研修会、トップアスリートを招いての教室、全国大会等への出場支援などを行う「水俣市スポーツキッズサポーター基金」事業をはじめ、スポーツ振興の中心的役割を担っている各競技団体の支援に加え、地域住民等との連携により、地域社会全体で子どものスポーツ活動を支える体制を構築し、スポーツを通して水俣に愛着を持つ人材、地域や職場等で中心的役割を担う人材の育成を推進します。

また、令和5（2023）年度から令和7（2025）年度にかけて予定されている中学校部活動の地域移行に関しては、円滑な移行が実施できるように取り組みます。

<関連計画> 水俣市教育振興基本計画

第2章 豊かな心で未来に挑戦する人づくり(教育・文化)

成果指標	単位	基準値(2021年度)	目標値(2026年度)
指導者研修会・トップアスリート誘致事業の実施件数	件	2	基準値の維持
小中学生の社会体育クラブの指導者数	人	86	基準値以上
中学校部活動の地域移行割合	%	—	100



トップアスリート誘致事業 (左: 富田 宇宙さん 右: 中村 礼子さん)

施策区分2：市民協働によるスポーツ活動の推進

【目的】

市民協働によるスポーツイベントの開催、子どもから高齢者まで誰もが気軽に参加できる生涯スポーツの推進、各団体と連携した競技スポーツの振興に取り組み、「スポーツで明るい豊かなまちづくりと人づくり」を推進します。

成果指標	単位	基準値(2017年度※)	目標値(2026年度)
市主催スポーツ大会の参加者数	人	4,374	基準値の維持

※新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、2017年度を基準値とした。



競り舟大会



市民駅伝大会

施策区分3：地域スポーツの振興と施設の充実

【目的】

スポーツ大会や合宿の誘致による交流人口の拡大を目的として設立した「スポーツコミッションみなまた」の活動を推進し、スポーツ大会や合宿などを誘致することで、地域のスポーツ団体等と交流を行うとともに、市民がハイレベルな大会や選手を間近に感じることで、地域スポーツの振興につなげていきます。

また、本市の重要なスポーツ資源である市立総合体育館の空調設備の整備など、誘致する大会の会場となる施設の充実を図ります。

成果指標	単位	基準値(2021年度)	目標値(2026年度)
市体育施設の年間利用者数	人	210,132(2017年度※)	基準値以上
市内スポーツ大会・合宿等受け入れ件数 (再掲)	件	22	30

※新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、2017年度を基準値とした。



市立総合体育館（左：外観 右：内観）

【市民アンケート調査における市民の意見】

- ・スポーツに力を入れ活性化していると感じます。
- ・大会出場に対する遠征費支援をさらに充実させ、スポーツで子どもを育てるまちにしてほしいです。

《用語説明》

- ※1 **ライフステージ**：人間の一生における幼年期・児童期・青年期・壮年期・老年期など、それぞれの段階のこと。
- ※2 **市民協働**：市民、市民活動団体、事業者及び市が、互いの立場を理解し、不特定かつ多数のものとの利益の増進を図るための共通の目標に向かって対等な立場で努力し、その成果と責任を共有しあう関係のこと。

施策3 地元唯一の水俣高校の支援



◆目指す姿

- ・水俣高校の魅力が増し、地域内外から水俣高校を志願する生徒が増えています。
- ・地域内の人材、国内外の高等教育機関等との連携・交流が促進されています。
- ・地元就職する水俣高校生が増加しています。

◆現状

市内に所在する高等学校は、「熊本県立水俣高等学校」1校のみであり、近年は少子化の影響等により、定員割れが続いています。

このような状況の中、水俣市と連携協定を結ぶ大学や企業との連携事業等により、オンライン等を活用し、市内に居ながら国際交流の機会や専門的な知識を吸収することができる学びの場を提供しています。

◆課題

地域内外の生徒の進学先として選ばれる高校づくりが必要です。

また、近隣に大学等の高等教育機関がないため、大半の生徒は進学により地域外へ出てしまいます。就職については、地元企業への就職率が5割に満たない状況で、若い人材が市外へ流出する傾向が続いています。

今後も引き続き、本市のネットワークを活用し、国際交流や多種多様な学びの場を提供する必要があります。

施策区分1：国際的に活躍できる人材の育成

【目的】

本市とつながりのある海外の大学や都市、国内の留学生等との交流や、生徒の学習意欲の向上に資する様々な機会を創出し、国際的視野を持つ人材の育成、地域内外から生徒が集まる高校づくりを支援していきます。

成果指標	単位	基準値(2021年度)	目標値(2026年度)
水俣高校への志願倍率	倍	0.49	0.70

施策区分2：国内外の大学・研究機関等との連携支援

【目的】

本市と連携協定を締結している国内外の大学との Web 会議ツールによるワークショップ、水俣訪問時の交流事業等を通じて、大学教育への興味、関心を育むとともに、国際的機関、研究機関、研究者等との交流機会を設け、グローバルで先端的な知識に触れる機会を提供します。

また、地元企業等との連携により、専門的な知識を吸収できる学びの場を提供します。

成果指標	単位	基準値(2021年度)	目標値(2026年度)
事業参加者数	人	323	基準値の維持
事業実施数	件	16	基準値の維持



高大連携未来塾（ベトナム日越大学×水俣高校）



産学官連携事業（木育ワークショップ）

施策区分3：地場企業等とのマッチング支援

【目的】

高校生と地元の企業が直接顔を合わせ、各企業の仕事内容を知る機会を設けることで、高校生の地元就職を増やし、ひいては地場企業の活力の向上につなげます。

成果指標	単位	基準値(2021年度)	目標値(2026年度)
就職希望者のうち地元企業への就職率 (水俣高校からの提供資料による)	%	37.9	50.0



しごと発見塾

【市民アンケート調査における市民の意見】

- ・ 将来の就職につながりやすい学科を、新しく増やすことも必要だと思えます。
- ・ 地元で働きたい子ども達のために、たくさんの求人があってほしいと思えます。

施策4 持続可能な地域社会を担う人材育成



◆目指す姿

- ・水俣市の現在の状況、未来に向けた取組が国内外に発信されています。
- ・国内外から多くの人々が水俣を訪れ、地域が活性化しています。
- ・水俣環境アカデミアを中心として、産学官民の連携が進んでいます。
- ・水俣市が、SDGs※¹の考え方に基づく、持続可能な地域社会のモデルになっています。

◆現状

水俣環境アカデミアは、高等教育・研究活動及び産学官民連携の拠点施設として、平成28(2016)年に開設され、地域と世界への貢献を目指し、これまで多くの人材育成事業、各種研修の受入れ等を行ってきました。

令和3(2021)年度は、101団体・1,324人が来館しています。

◆課題

これまで、様々な事業を行ってきましたが、今後は、水俣環境アカデミアのマッチング機能の産業面への波及、地場産業の振興に資する事業展開を図っていく必要があります。

また、各種研修事業においては、本市が目指す未来志向の取組を反映したプログラムとする必要があります。

施策区分1：高等教育・研究活動の推進

【目的】

本市と連携関係にある大学、環境省環境調査研修所、その他国連機関等による研修事業の受入れ等を実施し、水俣が持つ知見や技術、未来志向の取組などを発信します。

また、共同研究、人的交流の活性化を視野に入れ、国内外の大学とのネットワークを充実させるとともに、地域住民、地元小中学校との連携も推進します。

成果指標	単位	基準値(2021年度)	目標値(2026年度)
研修受入事業数	回	10	15

第2章 豊かな心で未来に挑戦する人づくり(教育・文化)



国連環境計画（UNEP）中間ワークショップ



慶応義塾大学及びアジア地域大学による
水俣現地フィールドワーク

施策区分2：次世代人材育成の支援・推進

【目的】

大学、研究機関、企業等との連携によるシンポジウム、ジュニアサイエンスセミナー※2、市民公開講座などを開催し、地域住民や事業者が最新の研究や技術に触れる機会を設け、地域を担う人材を育成します。

また、これらの事業により得られる成果やネットワークを活用し、水俣高校の活動を支援します。

成果指標	単位	基準値(2021年度)	目標値(2026年度)
事業参加者数	人	825	1,000
事業実施数	件	19	22



水俣環境アカデミアシンポジウム



市民公開講座

【市民アンケート調査における市民の意見】

・産、学、官のさらなる連携を望みます。

《用語説明》

※1 **SDGs**：国連加盟 193 国が 2016 年～2030 年までの 15 年間で達成するために掲げた国際目標で、「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成されている。

※2 **ジュニアサイエンスセミナー**：市内の小中学生が、大学及び研究機関で行う高度な実験や講義を体験することを目的とした人材育成事業のこと。

施策5 生涯学習の推進



◆目指す姿

- ・ 青少年育成組織の活動が活性化し、未来の水俣をつくる人材が育っています。
- ・ 広く市民に生涯学習の機会が提供され、生涯学習活動が活性化しています。
- ・ 社会教育※¹ 関係団体の活動成果が活かされ、活力ある地域が築かれています。

◆現状

本市の青少年育成については、小中学校区ごとに「校区育成会」を、また、その集合体として「水俣市青少年育成市民会議」を設置し、これらの組織を中心に、「朝のあいさつ運動」、「青少年育成活動」など、各種事業を実施しています。

また、市民の生涯学習の場として、公民館自主事業の「市民教室※²」を約15教室、「いきいき教室※³」を年2回程度開催しているほか、児童向けの「夏休み子ども教室※⁴」も開催しています。

さらに、地域活動の推進、青少年の健全育成などに取り組む社会教育関係団体に対し、活動費の助成を行っています。

◆課題

近年、子どもたちの生活の中で、体験の機会が少なくなっているため、専門知識や能力を持つ地域人材との交流や、物事を体験的・探究的に学習できる場の提供が必要です。

市公民館においては、年々、事業及び事業参加者が減少傾向にあり、市民ニーズの更なる掘り起こしに加え、開講日時などを工夫していく必要があります。

また、社会教育関係団体については、会員の減少が共通課題としてあげられますが、地域活動を活発にし、地域の活性化に主体的に取り組む人材を育成する観点から、今後も引き続き支援していく必要があります。

第2章 豊かな心で未来に挑戦する人づくり(教育・文化)

施策区分1：青少年の健全育成

【目的】

子どもたちの社会性や自己肯定感を高めるため、家庭・学校・地域、それぞれの教育機能の充実と連携を促進し、市全体で次世代を担う青少年の健全な育成を図ります。

<関連計画> 水俣市教育振興基本計画

成果指標	単位	基準値(2017年度※)	目標値(2026年度)
青少年育成活動及び体験活動参加者数	人	42	基準値の維持

※新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、2017年度を基準値とした。



青少年育成活動（左：小学生向け 右：中学生向け）

施策区分2：生涯学習活動の活性化

【目的】

市民ニーズに合った多種多様な学習機会を提供し、生涯学習活動の活性化を図るため、市公民館において、各種公民館自主事業（市民教室等）を開催します。

<関連計画> 水俣市教育振興基本計画

成果指標	単位	基準値(2017年度※)	目標値(2026年度)
市民教室受講者数	人	3,037	4,500

※新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、2017年度を基準値とした。



市民教室（フォークダンス）

施策区分3：社会教育関係団体の活動支援

【目的】

各社会教育関係団体の活動を支援することで、地域活動や社会教育活動を活発にし、豊かな地域社会を築くとともに、地域の活性化に主体的に取り組む人材の育成を推進します。

＜関連計画＞ 水俣市教育振興基本計画

成果指標	単位	基準値(2021年度)	目標値(2026年度)
市の補助金を活用した社会教育関係団体数	団体	3	基準値の維持

【市民アンケート調査における市民の意見】

・大人と子どもの交流を含め、芸術に触れる機会が多くなることを望みます。

《用語説明》

- ※1 **社会教育**：学校以外の場で、青少年及び成人を対象として行われる組織的な教育活動のこと。
- ※2 **市民教室**：広く市民に学習の機会を提供し、人生が豊かで実りあるものになるよう支援する事業のこと。
- ※3 **いきいき教室**：講師を招き、主にシニア世代を対象に、旬の話題やテーマを提供する事業のこと。
- ※4 **夏休み子ども教室**：夏休み期間中に小学生を対象とし、テーマを決めて実施する事業のこと。

施策6 文化の振興



◆目指す姿

- ・各種文化団体の支援や連携により、市民生活の中に多くの自主的文化活動が浸透しています。
- ・市民が歴史的財産を通じて地域の歴史を学び、郷土愛と誇りを持って生活しています。
- ・市民が優れた文化芸術に直接触れ、心豊かに生活しています。

◆現状

県内では最多開催数を誇る市民文化祭を毎年開催することで、日常的に活動している文化団体の発表の機会を設け、心豊かな暮らしの提供と市民文化の向上に寄与しています。

また、国登録、県・市指定文化財(34件)に対する関心を深め、直接触れる機会を提供することで、郷土愛を育むとともに、優れた芸術に生で触れる機会を創出し、感動と学びの場を提供しています。

公演内容(自主文化事業)については、様々なジャンルを分かりやすく提供することで、文化力の向上に力を入れています。

◆課題

文化団体の団体数・会員数の減少と高齢化が進む中、各団体の取りまとめを行う文化協会の自立した事務運営を進めるための体制づくりが求められています。また、文化施設の老朽化対策も喫緊の課題としてあげられます。

文化財の保存活用は、過疎化の進行により、担い手不足が深刻化しています。そこで、地域や関係機関と連携して水俣市文化財保存活用地域計画を作成し、適切な文化財の保存を行うとともに、文化財を観光や地域振興につなげていくための取組を推進していくものとします。

施策区分1：市民文化団体と人材の育成

【目的】

各種文化団体会員の高齢化が進行する中、市民の自主的な文化活動を維持活性化させるため、市民文化祭の開催等を通じて、文化の振興を図ります。

＜関連計画＞ 水俣市教育振興基本計画

成果指標	単位	基準値(2021年度)	目標値(2026年度)
市民文化祭来場者数	人	4,300(2017年度※)	基準値の維持
文化協会団体数	団体	39	45

※新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、2017年度を基準値とした。



市民文化祭（芸能のつどい）



市民文化祭（総合展示）

施策区分2：歴史や文化を活かした郷土愛の醸成

【目的】

水俣が生んだ偉人の生き方や言葉、郷土の歴史が息づいた文化財を通じた学びによって、市民の郷土に対する愛着と誇りが醸成されるよう、文化的歴史的内容を学習する機会を創出するとともに、文化財の適切な保護・活用を行うため、水俣市文化財保存活用地域計画を作成し、その推進に努めます。

＜関連計画＞ 水俣市教育振興基本計画

成果指標	単位	基準値(2021年度)	目標値(2026年度)
指定文化財件数(国登録、県・市指定を含む)	件	34	36
蘇峰・蘆花生家、記念館の入場者数	人	4,450(2017年度※)	5,000
水俣市文化財保存活用地域計画の策定	—	—	策定・運用

※新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、2017年度を基準値とした。

第2章 豊かな心で未来に挑戦する人づくり(教育・文化)



陣内官軍墓地



水俣城石垣

施策区分3：文化芸術に触れる機会の提供

【目的】

市民の創造力や表現力を育み、心豊かな生活と高度な文化水準を備えた地域社会の形成につながるよう、多くの市民が優れた文化芸術に触れる機会を創出します。

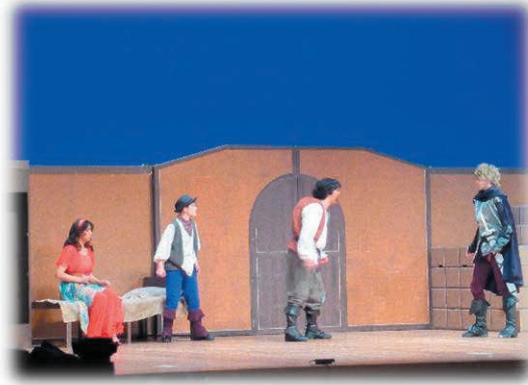
<関連計画> 水俣市教育振興基本計画

成果指標	単位	基準値(2019-2021年度※)	目標値(2026年度)
自主文化事業(一般公演)の集客率	%	80	基準値の維持

※過去3年間(2019年度:99%、2020年度:67%、2021年度74%)の集客率の平均値80%を基準値とした。



劇団四季ファミリーミュージカル
「人間になりたがった猫」(R4)



学校芸術劇場「ノートルダム物語」(R4)

【市民アンケート調査における市民の意見】

- ・自然、歴史、民俗資料館や近代文学館などがあれば良いと思います。

施策7 豊かな心を育む読書活動の推進



◆目指す姿

- ・子どもから高齢者まで、全ての市民が読書に親しむ環境が整っています。
- ・読書、創作活動を通して、言葉、感性、表現力、創造力豊かな人材が育成されています。

◆現状

読書活動を通じて、心豊かな人材を育成するとともに、人生をよりよく生きていけるよう、子どもから高齢者まで、全ての市民が身近なところで本に触れ、親しめるよう、学校、図書館で読書環境の整備を行っています。

また、乳幼児期から本に触れる機会を提供するため、ブックスタート、セカンドブック、動く絵本館「みなよむ号」の保育園・幼稚園・こども園、イベント等への派遣を行っているほか、市民の創作活動への意欲を高めるため、平成22（2010）年から童話作家による「創作童話ワークショップ」を開催しています。

◆課題

テレビ、インターネットなど、様々な情報メディア等の普及、発達により、生活環境が年々多様化する中、「活字離れ」「読書離れ」が問題となっています。

子どもから高齢者まで、全ての市民が読書に親しめるよう、これまでの読書のまちづくりの理念を踏まえ、本の楽しさを知り、本に触れる機会を設け、継続して家庭、学校、図書館で読書活動に取り組むことが問題解決に必要です。

また利用したくなる図書館づくり（学校図書館含む。）に取り組むとともに、身近な地域における読書環境の更なる充実が求められています。

施策区分1：学校における読書活動の推進

【目的】

子どもたちが本に触れ読書の機会が増えることは、創造力や豊かな心の育成、自発的な学習意欲、複眼的思考等の育成につながります。

学校においては、学校図書の実充と併せて、読書時間の設定や読み聞かせなど、児童生徒が学校で本に触れ、親しむ機会を積極的に創出し、読書活動を推進します。

<関連計画> 水俣市教育振興基本計画

第2章 豊かな心で未来に挑戦する人づくり(教育・文化)

成果指標	単位	基準値(2021年度)	目標値(2026年度)
学校図書館における児童生徒1人当たりの年間貸出冊数	冊	94	95
学校図書館で貸出冊数が月平均1冊未満(年間12冊未満)の児童生徒の割合	%	9.5	9.0

施策区分2：図書館を核とした市民読書活動の推進

【目的】

図書館においては、全ての市民が読書活動等を通じて心豊かに生きていく力を養うため、魅力ある図書資料の収集、乳幼児期から本に触れる機会の提供等を通して、あらゆる年代が本に触れ、親しみ、知的好奇心を満たすことのできる読書環境づくりに努め、図書館の利用促進を図ります。

<関連計画> 水俣市教育振興基本計画

成果指標	単位	基準値(2017年度※)	目標値(2026年度)
市民1人当たりの年間貸出冊数	冊	4.05	4.50
図書館利用率(図書館利用者数/人口)	%	9.62	10.00

※新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、2017年度を基準値とした。



みなよむ号



絵本贈呈式(セカンドブック事業)

施策区分3：読書・創作活動の推進

【目的】

市民の豊かな表現・思考・他者とのコミュニケーション能力を育むため、五感を使って自ら物語を想像（創造）し、創作する機会を、子どもから高齢者まで広く市民に提供するなど、水俣独自の特色ある読書・創作活動を推進します。

＜関連計画＞ 水俣市教育振興基本計画

成果指標	単位	基準値(2017年度※)	目標値(2026年度)
読書・創作事業参加者数	人	385	400

※新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、2017年度を基準値とした。



創作童話ワークショップ

【市民アンケート調査における市民の意見】

・図書館で調べものができるように、本を新しくしたり、種類を増やしてほしいです。

施策8 共生社会の推進



◆目指す姿

- ・それぞれの立場や考え等、あらゆる「違い」を認めあい、互いの人権が尊重されています。
- ・「男女(みんな)でいきいき・共に輝くまち」が実現しています。
- ・多様な文化に対する理解が進み、国際感覚豊かな市民が増えています。

◆現状

市民の人権意識を高めるため、地域人権教育指導員※¹を配置し、人権啓発に関する研修会を実施するとともに、犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちの更正について理解を深めるため、「社会を明るくする運動」を推進しています。

また、平成17(2005)年の水俣市男女共同参画都市宣言の実現を目指して、第4次水俣市男女共同参画計画を策定し、男女共同参画週間における講演会を開催するなど、市民への啓発を行っています。

国際交流等については、平成8(1996)年にデボンポート市(豪州)と姉妹都市協定を締結し、これまで20年以上にわたり交流を行っているほか、近年は水俣環境アカデミアを拠点とし、海外の大学、研究機関と連携した国際的事業を実施しています。

◆課題

市民の人権意識等を高めるため、各種事業の周知・広報を強化し、より多くの市民の関わりを促すことで、それぞれの立場や考えが違っていても、互いを認めあうことで、明るく住みやすい地域社会を築いていくことが必要です。

また、男女が共に社会のあらゆる分野に参画し、性別に関わりなく個性と能力を発揮できる多様な生き方を選択できるよう、家庭や地域、職場等における環境の整備が進んでいくこと、市の審議会や委員会、地域等の役員への女性の登用が増えていくことが大切です。

なお、国際交流については、水俣環境アカデミア等の地域資源を活用し、市民が多様な文化に直接触れる機会を創出することで国際理解を促進し、多文化共生社会※²の構築につなげていくことが必要です。

施策区分1：互いを認めあう社会づくり

【目的】

市民の人権意識を高めるため、人権啓発に関する研修会を実施することで、互いの違いを理解し、認めあえる人権意識の醸成に努めます。

＜関連計画＞ 水俣市教育振興基本計画

成果指標	単位	基準値(2017年度※)	目標値(2026年度)
水俣・芦北人権教育研究大会参加者数 (市民)	人	138	150

※新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、2017年度を基準値とした。



人権教育研究大会



水俣病資料館訪問学習

施策区分2：男女で共に支えあう社会づくり

【目的】

平成28(2016)年4月から「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」が完全施行され、女性の活躍が一層期待されています。本市においても、男女が共に支えあう社会づくりを総合的かつ計画的に推進していくために、男女共同参画計画を策定し、施策を推進していきます。

＜関連計画＞ 第4次水俣市男女共同参画計画

成果指標	単位	基準値(2021年度)	目標値(2026年度)
市の審議会等における女性の登用率	%	17.6	35.0



男女共同参画推進講座「農業委員会へ女性の登用を！」

第2章 豊かな心で未来に挑戦する人づくり(教育・文化)

施策区分3：多文化共生の推進

【目的】

姉妹都市交流事業、水俣国際交流協会※³と連携した各種国際交流事業及び水俣環境アカデミアにおける国際的事業を通じ、市民が外国人や外国の文化に直接触れあう機会を創出することで、多文化共生社会に向けた市民の国際理解を促進します。

成果指標	単位	基準値(2021年度)	目標値(2026年度)
水俣国際交流協会の会員数	人	45	60
国際交流員(CIR)の設置	人	1	基準値の維持



市民向け英会話教室



外国人向け地域日本語教室

【市民アンケート調査における市民の意見】

- ・多様な性への理解と知識を正しく教育してほしいと思います。
- ・知らないことが偏見や差別を生むことにつながるので、幼い時から色々な国の方との交流を増やしたほうが良いと思います。

《用語説明》

- ※1 **地域人権教育指導員**：市町村教育委員会が任命する会計年度任用職員で、人権尊重の精神の涵養を図る教育や啓発のための講座の実施や指導助言、また、市町村の人権教育・啓発推進上の成果と課題の把握などの業務を行っている。
- ※2 **多文化共生社会**：国籍や民族などが異なる人々が、文化的な違いを認めあい、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていく社会のこと。
- ※3 **水俣国際交流協会**：地域に密着した国際交流を推進し、世界に開かれたまちづくりに寄与することを目的に平成7（1995）年に設立された団体。